

第9号

令和6年

3月14日(木)

集立ち

加東市立社中学校

生徒指導通信

発行者

(生徒指導)

1年間の確かな成長

～無難ではなく、みんなに「有難う」～

私はゴルフが好きで、練習にもよく行くのですが、なかなか上達できません。「上手にならないのになぜそこまで熱中できるのか？」の答えは「簡単に思い通りにならないことが、逆に自分をむきにさせる、夢中にさせる」のです。やり続けていると、以前は出来なかったことが出来るようになる。思い通りにならないからこそ、真剣にやる・熱中する楽しみがあるのだと思います。皆さんにも、時間を忘れて思わず「夢中になること」はありますか？



ゴルゴ松本氏の『命の授業』という本の一節に、こんなことが書いてありました。
「人生には辛いことも苦しいこともある。困難、苦難、災難…この“難”は、できればない方がよい。実際の人生には、様々な難が有る。しかし、難が有ることを“有難い”と言い、感謝の気持ちを伝える事も“有難う”と言う。難が無い人生を“無難”という。“無難な人生”と“有難い人生”の違い。ここに人生をより良く生きるヒントがあるのではないか。」

皆さんはこの1年、思い描いた通りの1年だったでしょうか？それとも、思い通りにはなかなかいかなかった1年だったでしょうか？ 思い通りでなかった人は、「難が有った」ということです。その難の捉え方を“有難い”に変え、信じて歩みを続けていって下さい。歩みを止めなければ、成長します。そして必ず“有難い”に変わるときが来ます。

春は芽吹き季節です。1年の集大成であり、新たなスタートの季節です。これから、様々な困難や苦難、災難もあるかもしれません。そんな時、「無難な人生ではなく、難が有るから“有難い”」と考えていきましょう。

試練や“難”を乗り越えること、出来なかったことが出来るようになることに目を向け、その喜びを一緒に感じ取ってみませんか。



3年生 愛校作業

今月5日（火）に、3年生が「愛校作業」として、3年間お世話になった校舎に感謝の気持ちを「掃除」という形で表しました。日々の生活を過ごした教室はもちろん、給食コンテナや正面玄関等、様々な場所の掃除を丁寧に取り組みました。

この掃除に「3年間過ごした学校に対する「感謝。」の意味が込められているように、日本人は「場を清める」「ものを大切に使う」などのことを昔から大切にしてきました。その考えが根本となっているのが、大谷翔平選手の「ごみを拾うことで「運」を拾う」であったり、日本人サポーターによる「観戦後のスタジアムでのごみ拾い」ではないでしょうか。偉業を成し遂げ続けている大谷選手や、世界から称賛される日本人サポーターの行動は、「愛校作業」の精神とどこか通ずるところがあるように思います。

毎年、日本中の学校で行われているこの取り組みから、改めて学ばせてもらいました。日々の掃除も、自分次第で見方・取り組み方が変わってきますね。



★床を磨き上げる3年生★

【今後の生活について】

3学期が終わり春休みに入ります。春休みは、宿題も少なく自分のしたいことができる期間です。学習で不安な教科や復習が必要なところは、計画的に学習をすすめることが大切です。また、少しずつ暖かくなり部活動もしやすくなります。学習と部活動を両立させて、充実した春休みにしましょう。4月から新学年で良いスタートが切れるようにしましょう。生活面では、春休みのしおりの中にある「春休みの生活について」、「加東市中学生統一事項」をよく読んで、決まりを守って規則正しい生活を心がけましょう。



～保護者の皆様へ～

学校からお願いすることが多くありましたが、学校の指導に対して、ご理解とご協力を頂きありがとうございました。問題が発生しても、学校と家庭が同じ歩調で指導することで、生徒たちは自分の行動を振り返り、次につなげることができました。生徒たちが3年間で大きく成長するように、今後も学校と家庭が連携し、協働的な指導ができるようにご協力をよろしくお願いします。

